日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE

1.3.5.7.9月発行

2018 42 January

CONTENTS

- 理事長挨拶 …… 1面
- 優秀論文賞を受賞して、女性医師の立場から …… 2～3面
- 第5回理事会ニュース、第1回臨時理事会ニュース、新旧引継ぎ理事会ニュース、みんなでとろうIF …… 4～5面
- 第48回日本心臓血管外科学会学術総会、第71回学術集会情報、ネクタイ販売、編集後記 …… 6面

理事長挨拶

新年あけましておめでとうございます。

二期目の理事長を拝命し、今後の本会の展望をお話しさせていただきます。

日本胸部外科学会理事長 大北 裕

まず最初に、第70回の学術集会が松居喜郎会長のもと、2017年9月26日から29日まで札幌市で開催され、無事、盛会裏に終了したことを報告申し上げます。随所に会長の工夫が見て取れ、特に70周年記念企画が好評でした。また、多くの同時通訳の方々を随所に配置して頂き、外国からのお客様と深い交流を持てました。松居会長はじめ、北海道大学の皆様は元より、会員諸兄に心から感謝いたします。現在、松居会長が収集された資料を主として、会誌編集委員会では日本医科大学の新田隆教授を委員長として、日本胸部外科学会70周年記念誌を編集中で、本年の学術集会時に会員諸氏にお届けする予定です。毎年3,000名余の会員が集結する学術集会は本会運営の最重要事項と認識しています。現在、数年次の会長を中心にして学術集会委員会で会長制の再検討、プログラム編成、運営会社の選定方法、資金の獲得、会場の設定などを議論しています。

昨年度は5回の理事会、1回の臨時理事会を開催し、評議員会、学術総会などを通じて必要な定款施行細則変更を行いました。まず、三領域の理事数の均衡を図るために次期副会長を理事とすることを決定しました。また、名誉会員も特別会員と同様に選出条件を“年齢が満65歳以上”、としました。

本年度の本会活動の年次目標として、1．胸部外科学に関する学術研究事業、2．学会誌及び論文図書等による胸部外科学に関する広報事業、3．胸部外科学に関する調査研究及び教育事業、4．胸部外科学領域の専門医等の認定及び教育、5．内外の関係学術との連携提携及び調整事業、などを掲げました。

本年度は恒例の2年に一度の評議員選挙を行いますが、今回からweb選挙方式を取り入れ、290名の選挙評議員、10名の推薦評議員を選出いたします。正会員の方々、特に女性評議員の立候補を期待しています。同時に女性会員の積極的な参画を期待しています。

総合将来計画委員会では本会の将来のあり方について議論をしてきましたが、会長制について、正会員の意義、本会法人形態の検討などが新しい議題です。それ以外にも、本会の国際化、GTCS誌の充実、学術集会のあり方、地方会との連携なども継続議論します。

平成29年度（7月31日まで）の本会の財政は収入￥321,810,066、支出￥307,404,221で、正味財産変動は無く、総て健全でありました。また、報告書を事業別とし、各活動の収支を明らかにしました。

教育事業では本年も、呼吸器外科・心臓血管外科サマースクール、PGC、医療安全講習会を開催予定です。新たな取り組みとして、研究助成（JATS Research Project Award）を開始いたしました。また、従来から存在していたビデオ・ライブラリーを発展的に解消して、学術集会で高い評価を得たビデオ演題をHP上で閲覧可能にいたします。

懸案の機関誌GTCSについてですが、会員諸氏のご協力のお蔭で2016年度の仮IFは1.035となり、2018年上半期にはClarivate Analytics社の審査が決定される予定です。しかしながら、従来からのIF授与方針が変更される可能性もあり、予断は許されません。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。また、臨時増刊として“Controversies in Thoracic Aortic Aneurysm Surgery”が発刊予定で、引き続き、同様の増刊号を策定中です。

新専門医制度制定における日本外科学会専門医制度は2018年4月に発足予定ですが、本会としては、日本外科学会の一階部分と我々サブスペシャルティ部分のより進んだ連携を提唱するとともに、外科専門医取得に必要な症例数の不均衡も解消したいと考えています。

Annual reportについて2015年版の刊行が心臓部門のNCDからのコンバーター不具合により、大幅に遅れています。今後は、annual reportの改編も検討しています。呼吸器外科領域ではNCDデータと連結が完成しています。食道領域では、NCDデータからの連結を検討予定です。

国際委員会の取り組みとして、次世代会員の海外への短期留学“JATS travelling fellowship”、“JATS-AATS Graham fellowship”を昨年から開始いたしました。本年も4-5名の短期留学を募集いたします。詳細はHPの募集要項を供覧のうえ、奮って御応募ください。一方、また、Asian traveling fellowshipとしてアジア近隣諸国からの本会学術集会への参加も支援いたします。

昨年、発足した“地方会のあり方委員会”では、本会と地方会の連携をより緊密にする方策として会費収納の一本化を提案いたしました。しかしながら、その後のアンケートでは多数の反対意見を頂戴し、また、幾つかの問題が明らかになりました。それは、一般会員の半数近くが地方会会員ではないこと、各地方会ごとに構造的な相違が存在することです。今後は、拙速を避け、会員諸氏のご理解を得るため丁寧な説明を行いたいと思います。北海道、東北、関東甲信越、関西、九州の地方会では若い会員の格好の活躍の場となっています。昨年度から、各地方会の発表について、心臓血管外科、呼吸器外科専門医制度申請にクレジットを付けていただくことになりましたが、本年はこれを更新条件にまで拡大することを、機構・合同委員会にお願いしようと思っています。

2018年10月3日から第71回学術集会が品川で東京医科歯科大学 荒井裕国会長のもとで開催されます。荒井先生らしい命名の“Scientific creativity”がテーマで、どんな、新機軸、工夫が見られるか、今から期待を大きく抱かせるタイトルかと思います。

昨年、改正された個人情報保護法と学術集会演題応募、論文出版、専門医取得の際の症例登録などとの関係には未だ、明確なガイドラインは確立されていませんが、会員諸兄には本件に、ご注目して頂きたく思っています。

これにて新年の挨拶とさせていただきます。本年も会員諸兄のご奮闘を願ってやみません。

2017年度 日本胸部外科学会 優秀論文賞

受賞者の声

優秀論文賞を受賞して

心臓血管外科

佐藤 敦彦（東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学分野）

A novel biodegradable external mesh stent improved long-term patency of vein grafts by inhibiting intimal–medial hyperplasia in an experimental canine model

この度は名誉ある日本胸部外科学会優秀論文賞を受賞させて頂き、身に余る光栄に存じます。選考戴きました会誌編集委員会、理事会の先生方に心より感謝申し上げます。

受賞論文“A novel biodegradable external mesh stent improved long-term patency of vein grafts by inhibiting intimal–medial hyperplasia in an experimental canine model”は、冠動脈バイパス術において、長期開存率は不良であるにも関わらず、実臨床の場では依然として重要なグラフトの一つである大伏在静脈グラフト（SVG）の長期開存率の改善を目的とした研究です。また、再生医療分野を取り入れ、より早期に臨床応用することを目標に行いました。まず、生体吸収性高分子のポリL乳酸カプロラクトン共重合体（P（LA/CL））製モノフィラメント糸から作成する網目状外ステントを開発致しました。この外ステントで静脈グラフトを覆うことが、新生内膜の肥厚抑制の効果をもたらすという結果を得ることが出来ました。まだまだ改良点もありますが、P（LA/CL）外ステントは静脈グラフトの遠隔期開存率の改善に対して有用であると考えております。そして、一日でも早く臨床応用される日が来ることを願っております。

本研究および論文作成にあたり多大なる御指導を賜りました田林晄一前教授、齊木佳克教授ならびに医局員の先生方や他教室の先生方に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。今回、このような賞を頂けるとは考えてもいなかったので、人生何が起こるか分からないものだと改めて痛感致しました。緩みがちであった気持ちを引き締め直し、一層精進していきたいと存じます。

佐藤 敦彦
所属：東北大学大学院医学系研究科　心臓血管外科学分野
卒業大学：東北大学

経歴：
2001年　東北大学医学部卒業
2001年　NTT東日本関東病院　心臓血管外科
2006年　東北大学大学院医学系研究科　心臓血管外科　大学院生
2010年　東北厚生年金病院（現　東北医科薬科大学附属病院）
　　心臓血管外科 医長
2011年　東京女子医科大学東医療センター　心臓血管外科　助教

趣味：スキー、酒
好きな言葉：人間万事塞翁が馬

心臓血管外科

山中 勝弘（神戸大学 心臓血管外科）

Impact of acquired and innate immunity on spinal cord ischemia and reperfusion injury

この度は名誉ある胸部外科学会優秀論賞に選考頂き誠にありがとうございました。査読者の先生方、並びに選考に関わられた諸先生方に心より御礼申し上げると同時に身の引き締まる思いです。本研究はマウス脊髄虚血モデルを用いて脊髄虚血再灌流障害における自然免疫、獲得免疫の及ぼす影響を検討しました。近年、様々な分野に置いて自然免疫の及ぼす影響が注目されています。さらに胸腹部大動脈瘤手術、術後合併症である脊髄障害に対する有効な治療方法は確立されていません。本研究でも脊髄再灌流障害に置いて獲得免疫に比し、自然免疫が大きく関与していることが示されました。自然免疫をターゲットとした今後のさらなる研究が重要と考えられます。脊髄虚血再灌流障害の研究に置いて、当科でも以前より行ってきたように兎脊髄虚血モデルが一般的でマウスを用いた研究はマウスモデルの確立の困難さのため一般的ではありません。しかし、今後の汎用性や解剖学的にもヒトにより類似しているといったことを考慮しマウスを用いて研究を行いました。マウスモデルの確立にかなりの時間を要し、挫折しそうにもなりましたが多くの先生方のサポートのおかげで何とか完遂することができました。末筆ではございますが、御指導を賜りました琉球大学麻酔科　垣花学教授ならびに神戸大学　大北裕教授に心より感謝申し上げます。今後もリサーチマインドを忘れず本賞の受賞に恥じないよう一層、精進していきたいと存じます。

山中 勝弘
所属：神戸大学 心臓血管外科

経歴：
2004年　徳島大学　卒業
2004年　愛仁会　高槻病院　初期臨床研修
2006年　神戸大学心臓血管外科
2007年　兵庫県立姫路循環器病センター
2008年　兵庫県立淡路病院
2009年　富山大学附属病院　第一外科
2011年　神戸大学心臓外科
2015年　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
2015年～　コロラド大学心臓胸部外科　リサーチフェロー

趣味：ドライブ、ラグビー観戦
好きな言葉：我が環境で最大の努力
　　（徳島大学第２外科前教授　門田康正先生より）

呼吸器外科

三由　僚（京都大学医学部附属病院 呼吸器外科）

Significance of single lung transplantation in the current situation of severe donor shortage in Japan

この度は胸部外科学会優秀論文賞に選考いただき誠にありがとうございました。査読者の先生方、並びに選考に関わられた先生方に心より御礼申し上げます。

国際的には、移植後生存率や自己肺合併症の観点から、近年は両肺移植がスタンダードになっていますが、本邦における脳死ドナーの発生率は欧米諸国の数10分の1であり、脳死ドナーが不足しています。そのため、本邦では、感性性疾患や肺高血圧症以外の症例では、脳死片肺移植が第一選択となっています。本論文は、脳死ドナーが不足している本邦の現状における、脳死片肺移植の意義についての検討を行ったものです。具体的には、脳死片肺移植と脳死両肺移植の2群間で生存率や移植待機期間についての検討を行い、脳死片肺移植の自己肺合併症の頻度や予後についての検討を行いました。

本研究を始めた当時は、呼吸器外科を専攻したばかりであり、外科医としての臨床経験は勿論のこと、臨床研究に関しては、恥ずかしながら全くの未経験でした。また、統計学的な知識も乏しかったため、教科書を片手に毎日試行錯誤しながらデータを解析しておりました。そのような非常に苦しい状況ではありましたが、当時の京都大学には経験豊富な先生方が多数在籍しておられ、疑問に思った事をすぐに相談できたため、私のような若手医師にとっては非常に恵まれた環境にありました。諸先生方のご指導を頂きながら何とか研究結果をまとめる事ができ、また、私にとって初めてのoriginal articleがこのような名誉ある賞を頂く事が出来たことを、大変光栄に感じております。この場をお借りして、お世話になった皆様に感謝致しますと共に、今後も、日本の呼吸器外科に貢献できるよう、努力してく所存です。

三由 僚
所属：京都大学医学部附属病院　呼吸器外科

経歴：
2012年　神戸大学医学部卒業
2012年　公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院　初期研修医
2014年　京都大学医学部附属病院　呼吸器外科
2016年　静岡市立静岡病院　呼吸器外科

趣味：旅行、サッカー観戦
好きな言葉：継続は力なり

呼吸器外科

清水 公裕（群馬大学医学部附属病院 呼吸器外科）

Analysis of the variation pattern in right upper pulmonary veins and establishment of simplified vein models for anatomical segmentectomy

この度は名誉ある胸部外科学会優秀論文賞に選考いただき誠にありがとうございました。

この論文は、右肺上葉の区域切除に必須な、区域間静脈の走行を、3DCTを用いて解析し、その結果をもとに、解剖学的区域切除の静脈モデルを作成し報告した論文です。

肺の区域解剖は、1940年代にAppleton、Boyden、Ramsayらが解剖学的手技を用いて肺の区域解剖を解析し、その結果を報告したのが最初で、その後、本邦においても1970年代に山下や荒井らが報告してまいりました。特に山下らの研究は、質、量ともにそれまでの欧米の研究を凌駕するものでしたが、その解析方法の一部は肺を数センチごとに輪切りにして紙にトレースし、最後にそれらを組み合わせて簡易3DCT画像を作成し解析するという、並々ならぬ労力を必要とする作業でした。この事実を知ったことから、3DCTが簡単に手に入る現状において、我々が3DCTを用いた肺の局所解剖の研究を行なわない理由は無いだろうと考え本研究を始めました。実際に、3DCTを用いて解析を行ってみると、先人の研究への努力と、その正確性に驚かされるとともに、コンピューターソフトにより作成された現在の3DCTの精度と、その有用性を再確認することができました。我々の、3DCTを用いた右肺の局所解剖の解析結果は、当科の永島らがGTCS（2015; 63: 354-60, 2017; 65: 343-9）に報告しております。今回の論文は、これらの論文に掲載できなかった、区域間静脈に関する詳細なデータを呼吸器外科医の視点からまとめ、さらに区域切除に有用な簡易静脈モデルを作成して報告したものです。これまで3DCTを用いた肺の局所解剖および、この簡易モデルに関する論文は、なかなか欧米や日本においても認めていただけませんでした。しかし、区域切除の必要性が高まるに連れて、徐々に欧米においても認められるようになり、今回胸部外科の会員の先生方にも本論文を選考頂けたことは光栄の至りでございます。

清水 公裕
所属：群馬大学医学部附属病院　呼吸器外科
卒業大学：1993年　群馬大学医学卒業

経歴：
1993年6月～　群馬大学医学部附属病院　医員（研修医）（第二外科）
1994年6月～　群馬大学臓器病態外科学（旧第二外科）関連病院で勤務
1997年6月～　国立がんセンター研究所・生物学部で
　　リサーチレジデントとして勤務
2000年6月～　国立がんセンター東病院・呼吸器外科で
　　がん専門修練（シニアレジデント）
2002年6月～　群馬大学医学部附属病院　医員（臓器病態外科学）
2004年6月～　群馬大学大学院医学系研究科　助手（臓器病態外科学）
2009年4月～　群馬大学医学部附属病院　講師
2015年4月～　群馬大学医学部附属病院外科診療センター
　　呼吸器外科　診療准教授～

趣味：スポーツ全般、読書
好きな言葉・座右の銘：文武両道

食道外科

山下 継史（北里大学病院 上部消化管外科）

Neoadjuvant chemotherapy of triplet regimens of docetaxel/cisplatin/5-FU (DCF NAC) may improve patient prognosis of cStage II/III esophageal squamous cell carcinoma-propensity score analysis

このたび日本胸部外科学会の優秀論文に表彰されましたことを大変光栄に思っております。わたくしは研修医の2年目から胸部外科学会に所属し、食道外科をやっている関係で22年間にわたり本学会にお世話になっております。自分の研究の節目ごとに胸部外科学会で素晴らしい発表の機会を与えていただき大変感謝しております。そんな中での今回の受賞と相成りました。

食道外科分野で進行癌の治療は手術単独ではなく、手術を含めた集学的治療により改善することが知られておりますが、われわれは一貫してDCF術前化学療法を治療方針として採択してきました。それは、圧倒的な局所コントロールの良さに基づくもので臨床的には受け入れやすいものでした。しかし、長期的予後となると思う通りの結果につながるかいつも不安で患者様に本当にベネフィットがあるか心配しております。最終的な予後を知るには7年、8年かかる時代になってきておりますので、いまだ確定的な結論は得られていないのですが、毎年予後を更新しながらその治療成績を学会にて発表させていただいているおかげで自信を無くすことなく治療を継続できております。

今回、propensity score（PS）を用いて予後解析をする機会を得、PSも含めた多変量解析で有意差ありとなりました。本学会で発表させていただき、publicationを推奨され、JCTSに速やかに掲載させていただいたことはわれわれの信念に強い自信を与えてくれました。Publicationから1年以上たちますが、第2報は別の論文にも後報として掲載されました。良好な治療成績が更新され新しい知見なども導き出せています。

本学会には今後も患者のためにベストを尽くしている全国の食道外科医、胸部外科医の道を明るく照らしていただくことを祈念いたします。

山下 継史
所属：北里大学病院　上部消化管外科
卒業大学：九州大学医学部

経歴：
1995年～2000年　九州大学第二外科
2000年～2004年　米国ジョンズホプキンス大学頭頸部外科
2005年～現在　北里大学病院上部消化管外科

趣味：日本の古代史
好きな言葉：天命

女性医師の立場から

先生、外科医なのにどうやって子供を育てているのですか?

もっともっと女性外科医が増えることを期待したいと思います。

「先生、外科医なのにどうやって子供を育てているのですか？」と最近、女子医学生や若い女性医師によく聞かれます。

自分が医師となったのは、今から20年以上前で、まだまだ女性外科医が少ない時代でした。でも自分の腕で治せる外科医に大変魅力を感じました。医学部卒業時、何科を選択するか、家族間（特に父と）で大変もめました。「人前で平気で寝れるのか？」「結婚はどうするんだ？」親として大変心配だったと思いますが、その気持ちを裏切って外科の道に進みました。当初は消化器外科を専門に研修しましたが、その時、高齢の患者様に言われた一言「女性の研修医を外して欲しい」が今でも忘れられません。それだけ当時外科は男性中心の世界だったのだと思います。4年経過したところで妊娠がわかり1度は完全に仕事を辞めました。しかし、子育てのみの生活は、時間を持て余し、逆にストレスでした。そんな時に、現在日本呼吸器外科学会理事長の千田雅之教授より仕事の誘いを受けました。卒後6年、呼吸器外科医としての一歩が始まりました。現在3人の子供がいますが、子育ては今振り返るとあっという間でした。最初の勤務先では、手術が縦3列で行われることもあり、夜10時以降帰ることも度々ありました。しかし周りの先生方のご指導のおかげで自分も少しずつスキルがつき、手術そのものが楽しくなりました。その後、遅ればせながら基礎講座に出向し医学博士も取得できました。

最初の質問ですが、私の答えは「何とかなる」です。

最近、患者様に「主治医が先生で良かった。男の先生だと怖くて話せない事も気軽に話せた。」と言われることが増えました。嬉しいのはもちろん、自分が外科を志した20年前と時代は変わったと感じました。呼吸器外科は他の外科より女性に向いていると言われ、自分もその通りだと思います。夜中臨時手術で呼ばれることもほとんどなく、生活も安定しています。私を育ててくださった諸先生方に感謝すると同時に、これからもっともっと女性外科医が増えることを期待したいと思います。

保坂 智子
所属：労働者健康安全機構　東北労災病院　呼吸器外科
卒業大学：秋田大学　1993年卒

経歴：
1993年　仙台市医療センター仙台オープン病院（初期研修医）
1996年　東北大学医学部第二外科
1999年　仙台厚生病院呼吸器外科
2004年　東北大学加齢医学研究所呼吸器外科
2008年　東北労災病院呼吸器外科
2009年　東北大学医学部大学院修了（医学博士）

趣味：音楽鑑賞（特にクラシック）、ピアノ
好きな言葉：冬来たりなば春遠からじ

1．理事長選出の件

8月10日、選挙管理委員会委員長及び同副委員長立会いのもと、理事からの理事長候補者推薦用紙の開封作業が行われ、その結果、理事長候補者として大北　裕現理事長が選出された。8月28日、定款施行細則に則り、次期理事長として満場一致で選任され、副理事長は大北次期理事長から横井香平現副理事長が継続して指名され満場一致で選任された。

2．各種委員会報告及び協議事項

（1）理事会

1）定款施行細則改訂案の件

定款と施行細則に記載されている理事数のギャップを是正する（次期副会長を理事とする理事1名増員）ことと、名誉会員候補者の選出条件の文言変更案が提案され、本理事会で承認された。なお、定款施行細則改訂は評議員会で承認されれば施行できるので、次期副会長を理事とする案件が承認されてから、役員選挙を行うことが承認された。今回、次期副会長に選出された方は理事となることを確認した。

2）日本心臓血管外科手術データベース機構分担金依頼の件

分担金が承認され、2018年度は昨年度分も含め支払うこととする。

3）全国肺癌登録合同委員会分担金依頼の件

肺癌症例データベース登録は、関連学会からの分担金で運営されており、本学会でも承認され、今後、委員2名を派遣する。

4）評議員会資料となる現在までの理事会での審議・報告事項が報告された。

（2）倫理・安全管理委員会

会員処分件（2名）について委員会にて持ち回り審議をした結果が報告され理事会にて検討された。

（3）処遇改善委員会

日本外科学会の外科医労働環境改善委員会主体で行われたアンケートの解析（本会会員に特化した分析）を行った結果を委員に送付し、今後の委員会の方向性についてアンケートを実施中である。

（4）総合将来計画委員会

学術集会開催形態における分野別会長制の導入の是非、理事及び監事の定数と任期、正会員制度、法人形態の変更については本委員会で引き続き検討する。学術集会プログラムは学術集会委員会、ウェットラボ及びDeveloping the Academic Surgeonの開催は研究・教員委員会、地方会のあり方は地方会あり方委員会、災害時ネットワークの構築は総務・渉外委員会でそれぞれ継続して検討する。

（5）政策検討委員会

本会法人格について、本理事会終了後、行政書士を交えて検討することになっているが、今後は総合将来計画委員会で検討することとした。

（6）専門医制度委員会

新専門医制度の動向は、平成30年4月からの新専門医制度の開始に向けて、本年10月から基本領域19領域の専攻医の一次登録、12月には二次登録が開始予定である。

1）心臓血管外科専門医認定機構

今年度申請から、新難易度表に則っての申請（新規専門医30時間のOff the Job Trainingと参加型人工心肺操作実習5例の義務付け）、更新条件の一部改正、新専門医制度において心臓血管外科領域は単独型8年、外科専門研修心臓重点型7年以上としてカリキュラム制を導入、外科専門医研修に必要な症例数各分野10例で統一し、サブにより厚い外科専門研修ができるよう日本外科学会に要望していくことが報告された。

2）呼吸器外科専門医合同委員会

術者症例数（50例から60例に）と助手症例数（100例から120例に）を引き上げ予定、合同委員会の委員変更などが報告された。

3）食道外科専門医

平成28年専門医試験結果、現在の専門医数、認定施設数、平成29年度専門医試験予定日などが報告された。

（7）正会員選出委員会

2018年度正会員申請62名（専門医資格取得者：心臓40名、肺18名、食・その他4名）全員が正会員として選出され、既に理事会に報告され、承認されている。

（8）選挙管理委員会

次回評議員選挙がWebを用いての選挙に移行するに伴い、開票の集計作業は自動的に行われるため、委員会開催条件を緩和することが承認された。詳細は委員長に一任する。また、次々回評議員選挙は日程変更することが理事会で承認されており、施行細則改訂（案）を来年の評議員会に諮る予定である。その際に、満65歳の基準日については現行通り4月1日で変更なしとする。

（9）会誌編集委員会

審議事項

70周年記念誌作成・発行について見積りが提出され、承認された。

報告事項

投稿状況（新規投稿数182編、依頼論文9編）、Case ReportのAccept状況（31.6%）、現在の仮IF値1.035、優秀論文賞の選考結果（心臓2名・呼吸器2名・食道1名）が報告された。IFに関してはGTCS関連誌における各施設の引用状況調査資料が提出・説明され、引用していない施設が多く注意喚起された。また、評議員選挙におけるGTCS投稿歴の確認方法をホームページ・Newsletterへ掲載したことが報告された。2020年の評議員選挙から立候補資格に過去4年間（2016年2月1日～2020年1月31日まで）に1回以上のGTCS投稿歴（共著含）が必要となりEditorial ManagerのManuscript Numberを確認し提出する。

（10）学術委員会

2015年学術調査集計状況（心臓分野の胸部大動脈瘤のバイパス手術数を確認中で、出来次第、2015年の結果を発表予定）、2016年学術調査集計状況、2010年～2014年の5年間の解析結果（齋木委員が執筆してGTCS誌に投稿）、過去15年（2000年～2014年）の解析結果（学術総会で大北理事長が発表の予定）、プレスリリース（2010年～2014年の5年間の解析結果、2015年の解析結果、過去15年の解析結果）を行う予定である。

（11）日本心臓血管外科手術データベース機構

インターネットを介したデータ収集の継続、サイトビジットの継続遂行、心臓血管外科専門医申請業務との連携、データ利用状況、本会学術委員会アンケート調査に関する現状、医療の質向上に関わるプロジェクト、本会の協力要請などが報告された。

（12）学術集会委員会

第69回学術集会アンケート結果（回答者数514名回答率17.8%、主催校の運営会社評価は低かったが、参加者全体では概ね良好）、プログラム構成（学術集会基本構想）の検討、国際化への対応（①抄録タイトルの英語名義務化、採択された上級演題は英語抄録を提出、②発表は原則日本語、スライドは英語表記、③ポスターは英語表記が望ましい）、2017年度外国人名誉会員推戴、学術集会マニュアルの更新、トラベルグラント（国際委員会と協力、費用はフェローシップ基金）が報告された。今後、学術集会時の委員会費用分担ルール、プログラムはminimum requirementを文書化、評価システムを構築することを検討していく。ウェットラボの扱いは研究・教育委員会に依頼する。

第70回定期学術集会は、70周年記念事業として「本会の歴史と将来への展望」の企画、ビデオセッションを第2日目午後に集約しSurgical Technique Sessionとして開催、ハンズオンセミナー等が説明された。収支予算書：収入合計1億7,157万円が報告され、承認された。展示ブース等は会員が回れるような導線にすることが必要との意見がだされた。

審議事項としてSurgical Technique SessionのAorticの分野で優秀なものをCTSNetへ掲載する依頼があり、座長あるいは研究・教育委員会で検討し1～2人推薦することとした。

（13）財務委員会

1）平成29年度活動計算書（平成28年8月1日から平成29年7月31日）

本年から「財産の増減計算」に重点を置いた「活動計算書」の作成を開始し、経常的な事業に係る「一般正味財産増減の部」と使途が指定された収入を基に行う事業に係る「指定正味財産増減の部」とに区分した。

①一般正味財産増減の部

経常収益3億2,181万円、経常費用3億740万円（J-MACS事業含）、当期経常増加額は1,440万円、この結果、法人税等474万円を差引いた966万円を次年度に繰り越した。

②指定正味財産増減の部

フェローシップ基金事業寄付金900万円を受け入れ、平成30年度事業として実施することとなり繰り越した。Newsletter・関東甲信越地方会の費用について意見が出されたが承認された。

本年度分の繰越金は合計1,866万円であった。

2）平成30年度活動予算書（平成29年8月1日～平成30年7月31日）

経常収益3億6,240万円、経常費用は3億9,953万円を見込み、事業費では70周年記念誌作成費、全国肺がん合同登録委員会への負担金、管理費ではWEB選挙費を計上した。この結果、法人税等の負担を含めると大幅赤字を生じることになるが、本会の重要事業であり繰越金を充当することで対処する。

（14）診療問題委員会

平成30年度保険改訂に向けた活動報告がなされた。外保連要望項目で本学会が主学会となるもの、技術新設項目は胸腔鏡補助下弁膜症手術、技術・改正項目は脊髄誘発電位測定等加算のオープンステント挿入術への適応である。

（15）研究・教育委員会

1）日本胸部外科学会研究助成（JATS Research Project Award）

資金集め（臨床研究支援1件100万円、若手外科医への研究支援（50万円×2））で、10万円×20社を目標に趣意書を作成。来年3月末までに選出予定である。

2）本会主導全国規模調査研究

NCDデータを用いた研究は極めて実施困難と判断し、胸部外科学会内での横断的な調査に絞る。

3）JATS（Training）Academy

学術集会中に会長の判断で開催されてきた心臓血管外科領域のトレーニングコース（wet/dry labo）を、専門医取得条件であるOJTの必要性も考慮し、PGCと絡め研究・教育委員会が中心となって企画することが決定されたが、問題点もある。

本委員会を中心に①トレーニングコースを含めた育成プログラムを「JATS（Training）Academy」と称し、若手胸部外科医の臨床、研究の両面での育成を目指したプログラムを展開する。HP上に特別サイト（Academy）を設け、国内外の関連学会や集会での育成プログラム情報を学会員へ提供する。②日本心臓血管外科学会で開催され、本学会で検討された「Developing the Academic Surgeons」の内容を一部包括することで、若手呼吸器外科医や食道外科医の育成の促進を図ることも可能になる。③心臓であれば、冠動脈、弁膜症、先天性などの担当（理事、評議員）を置き、質の維持を図る。④HP上

のAcademy内に育成プログラムの一環としてビデオ閲覧コーナーを設置する。まずはPGCや学術集会での発表のものであるが、適宜発展させていく予定である。以上4点について、前向きに作業を進めることが承認された。

4）Postgraduate Course

各分野の進捗状況が報告された。

5）サマースクール

呼吸器外科、心臓血管外科の2017年サマースクールはいずれも盛況で終了し、開催報告をNews letterに掲載予定である。

(16) 広報（Homepage・Internet）委員会

News letterは掲載内容・発送方法が説明されペーパーレス化を検討すること、ホームページは主要ガイドライン掲載、フェローシップ・学術集会情報等をメール一斉送信し、学術集会・地方会のあり方のアンケートをWEB上から実施したことが報告された。

(17) 総務・渉外委員会

勤務医師賠償責任保険加入状況、呼吸療法認定士認定試験等の結果等、評議員WEB選挙システムを構築、災害時ネットワークは日本外科学会にも確認すること、学術集会運営会社選定結果（プレゼン担当者と運営担当者の違いによる問題）について報告された。

(18) 臓器移植委員会

ハイブリッド肺移植実施に関するルールの策定、肺移植レシピエント選択基準の見直し、特に術式、新規心臓移植実施施設の公募について報告された。

(19) チーム医療推進委員会

特定行為に係る看護師の研修制度が開始されたが、指定研修機関や研修修了者の数は、予定を大幅に下回っている。今秋の第70回定期学術集会における企画は、周術期管理におけるチーム医療をテーマとして行う。

(20) 第69回学術集会報告

前会長の三好先生からお送りいただいた学術集会報告書が提出された。

(21) 国際委員会

JATSフェローシップ（1名につき1～3ヵ月で100万円）心臓分野2名・呼吸器分野3名、JATS/AATS Graham Foundation Fellowship（1名につき1～3ヵ月で＄15,000）心臓分野2名の計7名が選出され留学先が決定したこと、協賛企業リストをホームページへ掲載すること、今後、トラベルグラントはASCVTSに協力を依頼することが報告された。また、胸部外科医の海外滞在調査を実施しホームページに掲載した。

(22) COI委員会

本会の「外科臨床研究の利益相反に関する指針」に基づき、役員及び当該委員会委員から利益相反自己申告書が提出されたことが報告された。

(23) 地方会のあり方委員会

Webアンケート「日本胸部外科学会は本会と地方会の一体化をめざします！」を実施し、その結果が報告された。945名から回答があり、賛成58％、反対36％、その他5％であった。4割強の人が地方会に入会していない、会費が高い等の意見が出された。

評議員会への提案方法としては、グランドデザイン（本会会員は所属する地域の地方会会員とする、地方会会費は本会会費と同時に一括徴収する）のみとすることとした。

(24) J-MACS委員会

4月から事務局をPMDAから本会に引き継ぎ、J-MACS説明会を5月に東京大学、9月に人工臓器学会中に開催したことが報告された。

(25) 補助人工心臓治療関連学会協議会

2017年実施施設、実施医、管理施設認定状況、植込型補助人工心臓治療の進捗状況、J-MACS委員会引継ぎ、VAD協議会代表が澤先生に交代、VAD協議会の下にインペラ部会の発足などが報告された。

インペラ部会

厚生労働省から日本循環器学会にIMPELLA（カテーテル型の補助人工心臓）の適正な使用策定の依頼があり、循環器学会では関連団体からなる「IMPELLA適正使用指針策定委員会」を設置した。同委員会よりVAD協議会宛に協議会の設置と施設認定などの具体的要望があり、VAD協議会の下にインペラ部会を設置した。部会長は澤VAD協議会代表、委員会は各学会からの派遣で、指針を策定し公開した。認定施設申請が7月に開始され、施設認定が進んでいる。市販後調査として、使用後1ヶ月間のフォローアップを含むデータ収集が必須となる。そのために、治療レジストリーを構築することが決定し、得られたデータはVAD協議会に帰属する。

(26) 経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会（TAVR）協議会

実施状況、実施施設認定状況（更新基準）、指導医/実施医（案）について報告された。

(27) ステントグラフト基準管理委員会

2016年度決算、2017年度予算、審査状況及び追跡調査登録状況、2015～2017年施設数について報告された。

3．その他

（1）肺移植関連学会協議会・議事録

本年6月20日に開催された肺移植関連学会協議会議事録が報告された。

（2）体外循環及び人工心臓管理技術認定士試験委員会分担金依頼

上記試験委員会への分担金を支払うことが承認された。

（3）NCD運営委員会

自施設のダウンロードが開始されていること、各専門医制度とのリンクにおいてNCDに登録料が未納の場合はデータを利用できないことが報告された。

日本胸部外科学会 第1回臨時理事会
2017年9月26日（火）13：10 ～ 14：20　ロイトン札幌 20F パールホールAB

1．通常評議員会・通常総会の進行について

事務局が作成した評議員会及び総会マニュアルを基に、議事を進めることを確認した。

2．学術集会コンペの件

毎年、第1回理事会に次期副会長の学術集会運営会社のコンペを次期副会長の意見を取り入れ実施しているが、本社の担当者がプレゼンをしても該当地域の担当者が違う場合があり、直接の担当者がプレゼンを行う必要があるとの意見がだされた。

3．会員処分（2名）の件

定款・定款施行細則に則り、また、弁護士からの意見を取り入れ再検討をした。

4．OFF JT 連絡協議会委員の件

3学会構成心臓血管外科専門医認定機構でOFF JT連絡協議会を組織する提案があり、本学会から種本理事と夜久理事の2名を推薦することが承認された。

5．監事1名増員の件

定款に記載されている2人以上4人以下に合わせて、定款施行細則を4人以内に変更することが提案され、承認された。評議員会で承認されれば、来年から監事は4名以内となる。

6．その他

1）選挙管理委員会

次回評議員選挙（2018年3月15日締め切り）から、Webを用いての評議員選挙となり、開票の集計作業が自動的に行われるため、委員全員を招集する必要はなく、委員長と副委員長の2名で行うことが承認された。

2）広報（Homepage-Internet）委員会

会長一任で学術集会Newsletter特集号（毎年10月発行4ページ構成）を発行する意見が出されたが、継続審議となった。

3）学術調査

第70回学術集会の際の医療安全講習会の講演内容から、学術調査が個人情報保護法に抵触するのではないかとの問題が提起され、倫理・安全管理委員会で検討することとした。

日本胸部外科学会 新旧引継ぎ理事会
2017年9月29日（金）7：00 ～ 8：00　ロイトン札幌20F パールホールAB

1．理事・監事退任及び新任の挨拶

大北理事長からそれぞれの該当者が指名され、引き続き、該当者から挨拶が行われた。

2．2018年理事会予定

第1回理事会は2017年11月20日（月）、21日（火）のいずれかで開催予定である。

3．選挙評議員定数の件

定款施行細則第26条に則り、290名を選挙評議員とすることが承認された。また、女性評議員数について検討した。

4．会員処分（2名）の件

最終的な処分を決定し通知することが承認された。

5．その他

1）日本医学会連合会費の件

会費を支払うことが承認された。

2）ガイドライン策定の件

診療ガイドラインについて検討された。

3）肺癌登録合同委員会には2名の委員を派遣する。

4）法人化の件

学会としての本質、また、どのような事業を行うか総合将来的見地から検討していく。

チーム医療におけるリーダーシップ

第48回日本心臓血管外科学会学術総会開催にあたって

新保 秀人
三重大学大学院医学系研究科胸部心臓血管外科教授

日本心臓血管外科学会は昭和47年に設立され、会員数4200名を超える歴史と伝統のある学会であります。この度の第48回日本心臓血管外科学会学術総会を三重大学大学院医学系研究科胸部心臓血管外科教室が主催させていただくことは大変光栄なことであり、教室員一同鋭意準備をしているところであります。

第48回学術総会は2018年2月19日（月）、20日（火）、21日（水）の3日間、三重県総合文化センターにて開催予定で、前日の18日（日）には卒後教育セミナー（Basic とAdvanced）、評議員会が企画されています。学会のテーマは「チーム医療におけるリーダーシップ」としました。心臓血管外科手術は外科医ひとりでは成立しませんから手術だけをとってもチーム医療といえます。更に昨今の手術症例は疾病が複数みられることも多く、複数科の医師や多職種の協力も必要となります。その中でいかに最良の治療を行うかリーダーシップが求められていると考え、上記のテーマを掲げました。

特別講演はチンパンジー研究で有名な京都大学高等研究院の松沢哲郎先生にお願いしてあります。外国からの招待講演者は13名です。①Edward D. Verrier（University of Washington, USA）、②Duke E. Cameron（Massachusetts General Hospital, USA）、③Ottavio R. Alfieri（Ospedale San Raffaele, ITA）、④Jennifer S. Lawton（Johns Hopkins University, USA）、⑤G. Chad Hughes（Duke University, USA）、⑥John R. Doty（Intermountain Medical Center, USA）、⑦Woong-Han Kim（Seoul National University, KOR）、⑧Vladimiro L. Vida（University of Padua, ITA）、⑨Hiroo Takayama（Columbia University, USA）、⑩Koichiro Nandate（University of Washington, USA）、⑪Werner Lang（Erlangen University, Germany）、⑫Douglas R. Johnston（Cleveland Clinic, USA）、⑬Michael P. Caskey（Southwest Heart & Lung, USA）にお願いしてあります。

教育講演は「高齢者医療におけるフレイルの重要性－特に外科医療を中心に－」と「脊髄保護」です。教育ビデオも「先天性」、「後天性」、「重症虚血肢に対する末梢動脈吻合」をテーマにエキスパートによる手技としてお願いしました。特別企画は「CVSAP（Cardiovascular Surgery & Anesthesia & Perfusion）」がテーマを「開心術における臓器保護とそのモニタリング・術中管理」として行われるなど8つの企画を予定しております。ビデオシンポジウムを4テーマ、パネルディスカッションを5テーマとしました。他、会長要望演題、一般口演、ビデオ演題、ポスター発表、医療安全講習会などです。熱い議論が行われることを期待しています。

参加される先生方にとって、少しでも有意義な学術総会になるよう準備を進めて参ります。三重県は伊勢神宮以外も見どころはありますし、本居宣長、松尾芭蕉、本邦で初めて国語辞典を編纂した谷川士清などを生んだ土地でもあります。歴史に触れて頂くのもよいかと思います。また、伊勢海老、あわび、牡蠣が美味しい時期でもありますし、更に松阪肉もございます。味覚も楽しんで頂ければと思います。会員の皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

新保 秀人
所属：三重大学大学院医学系研究科胸部心臓血管外科

1979年　三重大学医学部卒業
1989年　Harvard Medical School,
　　The Children's Hospital (Boston) 留学
2004年　三重大学胸部心臓血管外科教授
2006年　三重大学医学系研究科 研究科長補佐
2008年　三重大学附属病院 副病院長
2015年　三重大学 副学長

趣味：スポーツ
好きな言葉：龍になれ、雲自ずから従う

第71回日本胸部外科学会定期学術集会

Scientific Creativity

会期：**2018年（平成30年）10月3日（水）～6日（土）**
会場：**グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール**
〒108-8612　東京都港区高輪3-13-1
会長：**荒井 裕国**
（東京医科歯科大学大学院・医歯学総合研究科 心臓血管外科学 教授）
URL：**http://www.congre.co.jp/jats71/**

演題募集期間（予定）

2018年2月20日(火) ～ 4月24日(火)

※公募演題詳細等はホームページで随時更新してまいりますのでご確認ください

主催事務局：**東京医科歯科大学大学院・医歯学総合研究科 心臓血管外科学**
〒113-8519　東京都文京区湯島1-5-45
運営事務局：**株式会社コングレ**
〒102-8481　東京都千代田区麹町5-1弘済会館ビル
TEL：03-5216-5318　FAX：03-5216-5552
E-mail：jats71@congre.co.jp

お知らせ

限定300本

日本胸部外科学会 オリジナルネクタイ販売

JATSオリジナルネクタイは、28年前、第43回末舛会長がお作りになりましたが、第68回大北会長がデザインを刷新し作成されました。
この度、限定300本を販売しております。
深みのある紺地に赤・緑・黄のストライプと心・肺・食をイメージしたロゴマークが施されたデザインとなっております。
会員の皆様、学術集会参加の際などに是非お一ついかがでしょうか！

ご購入手続き　**1本…￥3,600**（ネクタイ…￥3,240（税込）＋レターパック…￥360）
なお、複数本ご購入の場合は、送料変更の為、ご入金前に一度事務局にご連絡願います。

Step1 代金のお振込み
振込額：1本￥3,600（ネクタイ…￥3,240（税込）＋レターパック…￥360）
口　座：みずほ銀行　飯田橋支店
　　普通預金　2288186
名　義：特定非営利活動法人日本胸部外科学会
　　トクヒ）ニホンキョウブゲカガッカイ
※振込人名を必ず入力

Step2 事務局へメール
宛　先：jats-adm@umin.ac.jp（ネクタイ販売窓口）
件　名：JATSネクタイ購入希望・入金完了
本　文：会員番号　T
　　氏　名　※必ず明記
　　発送先　※学会登録の住所以外に送付する場合のみ記載

発送は『代金のお振込み』と『事務局へのメール』が共に確認できてからになります。

編集後記

このたび広報委員会委員長となりました獨協医大呼吸器外科の千田と申します。ニューズレターは若手医師や研修医に日本胸部外科学会の今を伝える媒体です。努力して作った紙面でも受け手側の心に届かなければゴミ箱に直行するという悲しい定めを背負っています。若手会員やこれから胸部外科医を目指す研修医、学生がどういう情報を必要としているのか、そして入局者の多い医局と少ない医局では何が違うのか、みなさんの協力を仰ぎながら詳らかにしていきたいと思います。胸部外科学会はその構造上本質的な問題を抱えていますが、広報の仕事はあまりその問題とは直結しないので、楽しみながら紙面を作っていきたいと思います。よく心臓外科医は肉食で呼吸器外科医は草食と言われます（食道外科医は何なんでしょう？）。一方、最近の男子は草食化し女子は肉食化しているとも言います。肉食動物にも草食動物にも楽しんでいただける有用なニューズレターを作ることができればと思います。よろしくお願いいたします。　広報委員会委員長　千田 雅之

千田 雅之
所属：獨協医科大学呼吸器外科
卒業大学：東北大学 1986 年卒業
経歴：東北大学抗酸菌病研究所
（現加齢医学研究所）外科入局
Northwestern 大学、Colorado 大学留学
東北大学シッキムヒマラヤ学術登山隊登頂隊員
趣味：若い頃は山岳登攀。現在はモーターバイクによるツーリングやサーキット走行。
好きな言葉：憂きながら人のためぞと思わずは
何を世にふる慰めにせん

日本胸部外科学会 NEWSLETTER
JUST NOW JATS
No.42
2018年1月10日発行

発行◉特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F
TEL◉03-3812-4253　FAX◉03-3816-4560
URL◉http://www.jpats.org/

編集◉日本胸部外科学会 広報委員会
E-mail◉jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作◉株式会社 杏林舎

本誌掲載記事、写真等の無断複写・複製・転載を固く禁じます。©The Japanese Association for Thoracic Surgery